

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0172901308), 法人名 (有限会社 旭川ケアサービス夢), 事業所名 (グループホーム夢 東ユニット), 所在地 (旭川市春光台4条9丁目4-3), 自己評価作成日 (令和元年11月1日), 評価結果市町村受理日 (令和元年12月13日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail/022/kiho_n=true&JieyosyoCd=0172901308-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年11月22日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旭川郊外にあり緑の多い自然に恵まれた静かな環境に立地している。近隣には大きな施設の公園があり、花見やお祭り、散歩などに出掛け日々楽しく過ごされています。各居室にはトイレ、洗面台、ナースコールが設置されている。施設内では入居者様と職員が穏やかに会話したり、明るい雰囲気の中で生活をしている。職員は長期勤続者が多く入居者様とも永い交流をしておりますご家族様との信頼関係に繋がっている。看護師が勤務し入居者様の健康面等管理している。通院面でも必ず職員が同行、送迎し医療機関とも連携を取っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

数多くの高齢者介護支援施設を展開する「旭川高齢者高齢者グループホーム」のグループとして福祉村地区に開設されたグループホーム夢はグループの使命・会社の社会的存在意義を、「私どもは利用者様並びにご家族様の未充足な部分を充足して頂くためのお世話をさせていただきます」と規定し、利用者、家族が満足するサービス提供を目指している。家族への連絡や報告は詳細に行う様にしており、毎月発行の通信には写真を多く掲載し、家族に様子が分かるように取り組んでいる。また、法人では事故減少、防止の為に取り組みとして転倒転落防止委員会を設置し、毎月会議を行い、内容は各事業所の毎月のミーティングで周知し事故の防止に繋げている。個人の介護記録には健康に関するバイタル表示は赤の枠、受診関係は青の枠、利用者家族関係は緑の枠と、すぐに分かり確認出来る様工夫されている。事業所内は和やかであり、利用者に寄り添い希望が叶えられる様、会話や見守りを重視した介護に取り組んでいる。付近には障がい者等の大きな施設が複数あり、毎年フェスティバルや集いに招待されており、参加して交流している。各ユニット理念には地域との触れ合いを大切にすることが掲げられ、利用者が地域に知ってもらえるよう取り組んでいる。散歩時には挨拶し、言葉を交わす事を大切にしている。家庭的で地域に根差すことを実践しているグループホームである。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所とそれぞれのユニット毎の理念をあげ、ミーティングなどで唱和し日々の実践を心掛けている。	法人理念、ユニット理念を策定し、事務所、ホールの目につきやすい場所に掲示して、常に意識できる様毎月の会議で唱和し実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内の花植えや地域のお祭り等に参加し、住民の方と交流の機会を設けている。	町内会に加入し花壇整備や地域の祭りに参加したり、近隣を散歩のときには挨拶を交わすなどしている。地域の障がい者施設からフェスティバルのお誘いを受けており、多くの利用者が参加している。また、町内会長や民生委員へは敬老会等の事業所行事への案内をしており、参加を得て相互の交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られる方に対しケアマネジャーは認知症への対応や介護サービスについて相談を受け対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、ホームでの行事や生活の様子を報告している。身体拘束廃止の取組みについて報告し出席者の方々に意見を伺い反映出来る様に努めている。	運営推進会議は年6回利用者、家族、町内会役員、地域住民、市担当者、民生委員、事業所看護師等の出席を得て、避難訓練や敬老会開催の後実施し、意見を得て運営に活かしている。案内は通信を活用したり、議事録は郵送し家族との情報共有を図っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、不明点は市役所の担当者に確認している。	市担当者は毎回運営推進会議への出席を得ている他、報告書提出で訪問している。地域包括とは主催の研修会参加やケースワーカーから助言を得ており、積極的に関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会に参加し伝達報告会を行っている。職員は身体拘束をしないケアの実践に取組み重要性やその弊害を理解しサービスの提供に努めている。	身体拘束をしない介護の実践については、身体拘束廃止に関する指針を策定し、身体拘束廃止委員会を設置している。毎月の会議で高齢者虐待防止や身体拘束廃止を議題に上げ、適切な介護が出来るよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング等で職員同士で言葉遣いや介護方法について話し合い、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいないが、理解を深め対応出来る様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書や重要事項説明書の該当箇所を示しながら口頭で説明している。また制度改正時には改めて説明し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様には普段から話しやすい環境作り意見、要望等を確認している。また毎月の通信「夢だより」を通してご家族様には、日々の暮らしを細かく伝えている。	利用者、家族の意見や要望は日常的な会話や面会時に話しやすい雰囲気を作り、その中で把握している。また、毎月「夢だより」として通信を発行し、行事や日常の様子を文章や写真で詳しくお知らせしている。家族からは感謝の言葉が多く聞かれ、信頼関係が出来ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に各ユニット毎に月1回のミーティングを行い職員意見や要望を聞く機会を設けている。	職員の意見や提案は日常業務の中や毎月の会議の中で聞く機会を設けている。毎月の会議では利用者のカンファレンスの他、法人全体の転倒転落検討会議の検討事項も話し合わせ、積極的な意見は業務に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に職員の相談に乗る様に心掛け、職員のスキルアップの為、研習に参加を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の自主的な研修参加に配慮している。研修後は報告書を回覧し職員間で共有出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修や系列施設内で行なっている、転倒転落委員会に参加し情報交換を行い、交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人の情報資料を職員間で共有している。困っている事、要望等確認し出来るだけ要望に沿えるよう検討を行い、入居者が安心して生活出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様より不安な事、要望などを伺いより良いサービスに繋がる様に取り組んでいる。ご家族様とのコミュニケーションを大切にし意見、要望を話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に必要なサービスについて話を聞き職員間で入居者が何を必要としているか話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来る事を見極めて、一緒に行える家事のお手伝いなど行う事で介護される一方の立場にならない様に配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が、長く安心して生活が出来る様にご家族様の面会時にはホーム内での様子を報告したり、状態変化があればその都度連絡をしご家族様の協力を得ながら共に支えて行く関係性作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て自宅へ外出、外泊をしたり、お墓詣りに出掛けている。お手紙を書く際には、字と一緒に調べたりし馴染みの関係が途切れない様に支援をしている。	利用者家族の協力を得て外泊をしたり外出をしている。外で知人に出会い連絡を得て訪問があり、その時には関係継続が出来るよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、散歩、行事等で入居者様同士の関係が深められる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院先を訪ね、必要に応じてご家族様の相談に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や本人の表情、ご家族様からの情報などから意向の把握に努めている。	利用者の思いや暮らし方の意向は日常の会話の中で把握するよう努める他、利用契約時に家族から伺ったり、生活歴を確認し実現できる様取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人、ご家族様から生活歴を確認しアセスメントシートに記載している。これまでの暮らしの情報は生活する上でヒントがあると考える把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に日頃の様子を詳しく記入し、変化があった際には申し送り等で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、ご本人、ご家族様の意向をお聞きしている。その他にも課題や検討が必要な時にはミーティングを行い現状に必要な支援が出来る様努めている。	介護計画は基本的に短期目標の期間で見直しに取り組んでおり、本人、家族の要望を反映して、現状に即した計画になるよう作成している。介護記録には健康記録は赤枠、家族との会話は緑枠、受診は青枠と分かりやすく工夫されている。	介護記録の中には本人の会話や行動記録が記されているが、介護計画とサービス提供に関しての記録の工夫を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子を詳しく記録し、毎朝の申し送り時に情報共有しケアや介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の入居者様の状況に合わせ、受診の援助や一緒に買い物に行く等、その都度柔軟に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内で行う行事ではボランティアの方々に協力して頂いたり、近隣施設のお祭りや博物館、田んぼアートの見学へ行き楽しい時間を過ごせる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、入居者様やご家族様の希望される医療機関に受診して頂いている。受診には必ず職員が付き添い日頃の様子を医師に報告し助言を頂いている。	利用者のかかりつけ医への受診を基本としており事業所に対応すべく取り組んでいる。数名の利用者は訪問診療を受けており、また、法人の看護師が毎週3回訪問しており適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週3回勤務して日頃の健康管理に努めている。気になる事がある際には相談し処置や受診等の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設、病院間で情報交換を行っている。職員が病院へ出向き、治療方針の確認や早期退院の相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合による指針を契約時に説明しご家族様の意向を踏まえながら、事業所として出来得る支援を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方に関しては、契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」で、利用者家族、医師、看護師、事業所と連携して出来る限りの対応を行う旨説明し、理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講習やAEDの使用方法等を研修で学び、職員全体で周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、運営推進会議では町内会長さん、民生委員さん等に訓練を見学して頂き協力体制を依頼している。	火災の避難訓練は年2回日中、夜間想定で消防署の指導を得て運営推進会議の中で実施している。また、消防勉強会で地震や雪害、停電のシミュレーションを行い対策の確認をしている。非常用電源装置を設置する様になっている。	災害訓練や対策に取り組んでいるが、地域住民の参加協力、役割の依頼は今後の課題であり、早急な体制づくりを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士不適切な声掛けや対応を行っていないかお互い気を付け、声の大きさ等にも配慮し対応する様心掛けている。	利用者一人ひとりの人格やプライバシーを損ねないような配慮を行っている。呼びかけは苗字名前のさん付けで行っており、声の大きさにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや行事などの参加は強制せず希望を伺いながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースやその時の体調に合わせて声掛けし、臨機応変に行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用して頂いている。季節に応じた衣替えのお手伝いや職員と一緒に洋服を買いに出掛ける方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせた形態や量で提供している。おしぼりたたみ等のお手伝いをして頂いている。	献立は法人の栄養士が作成し、毎日業者により食材が届けられている。全体の調理を専門職員が担当し行っている。特別食、行事食も用意されており、誕生日には希望で外食等に出かける事もあり、楽しい食事になるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を提供している。全ての入居者様の毎食の摂取量や水分量は記録し、状況に応じた支援が出来る様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの入居者様に合わせ口腔ケアの声掛けや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い排泄パターンを把握しトイレの声掛け、介助やパッド交換を行っている。	排泄は一人ひとり記録を取り、パターンを把握して声掛け誘導をしながら、トイレで行えるよう支援している。その際、周りに聞こえないように呼びかけに配慮した介護に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩を出来る範囲で行ったり、おやつに乳製品を取り入れて便秘の予防に努めている。毎日の水分摂取量を把握し適量摂取出来ているか確認を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴準備が出来る方とは職員と一緒に準備を行っている。週2回入浴して頂いているが、入浴時体調がすぐれない時には無理せず個室浴など使用している。	各ユニットにはタイプの違う浴槽があり、多くの利用者は、大きい浴槽で週2～3回の入浴を楽しんでいる。体調やその日の状況で個浴での取り組みも行っており、利用者にあった入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には各入居者様のペースで生活をして頂いているが、日中はレクリエーションや散歩、外気浴の声掛けなどを行い安眠できる様に支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表がファイルされており、名前、日付等の確認をし服薬介助を行っている。薬の変更があった場合には、入居者様の様子を細かく観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の希望に合わせて、散歩や花、苺の世話をしたりホールで新聞を読む、計算ドリル、塗り絵など楽しめる事をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期には、散歩や外気浴を行っている。近隣施設(博物館など)へのドライブも企画、実施し気分転換を図っている。ご家族様の支援により外出や外泊をされる方もいらっしゃる。	気候が良くなると周辺地域へ散歩や外気浴で、外に出るようにしている。花壇の整備、他事業所祭りへの訪問、花見、ドライブと数多く出かけており、希望がある時はなるべく外出できる様フットワークを軽くして気分転換が出来るよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお金を預かり、必要に応じてご本人の希望を伺い買い物の代行や個別で買い物へ行く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については希望があれば対応し、手紙を書かれる際には一緒に漢字を調べたり切手の購入等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには入居者様の日常の写真や季節に応じた飾り付けを定期的に掲示し季節感を感じて頂ける様にしている。	概ね左右対称の設計になっており、事務所前で繋がり交互に交流が出来る造りとなっている。天井は高く開放的であり、季節の飾りつけや行事の写真で楽しい思い出が感じられるよう工夫されている。大空間の為、温湿度が最適に保たれるよう乾燥にも気を配り、居心地よく寛げるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールソファや居室などでご自分のペースで休んだり、テレビを観たりゆったりと過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのある物を居室へ持ち込んで頂いたり、ご家族の写真を飾る等し安心して暮らせるよう工夫している。転倒や怪我などしない様に整理整頓をし安全に過ごせる様に支援している。	各居室には洗面台とトイレが設置されており、ペット、筆筒、ソファ等の家具を配置し家族の写真、絵や人形を飾って自宅同様に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口にお名前を付けたり、ホール内には障害物がない様に配慮している。		